

木材需給動向について (全国)

2022年5月

林野庁

全国の木材需給動向について、
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて
毎月資料を更新しています。
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r
yutsu/kyougikai.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r
yutsu/kyougikai.html)
（QRコードからもアクセスできます。）



さらに・・・

林産物に関するマンスリーレポート「モクレポ」
木材・木材製品、特用林産に関する最新の統計
データや、林野庁の施策に関するトピックス、セ
ミナー・イベントの情報などを取りまとめ、毎月
中旬に更新しています。
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei
/monthlyreport.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei
/monthlyreport.html)



目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

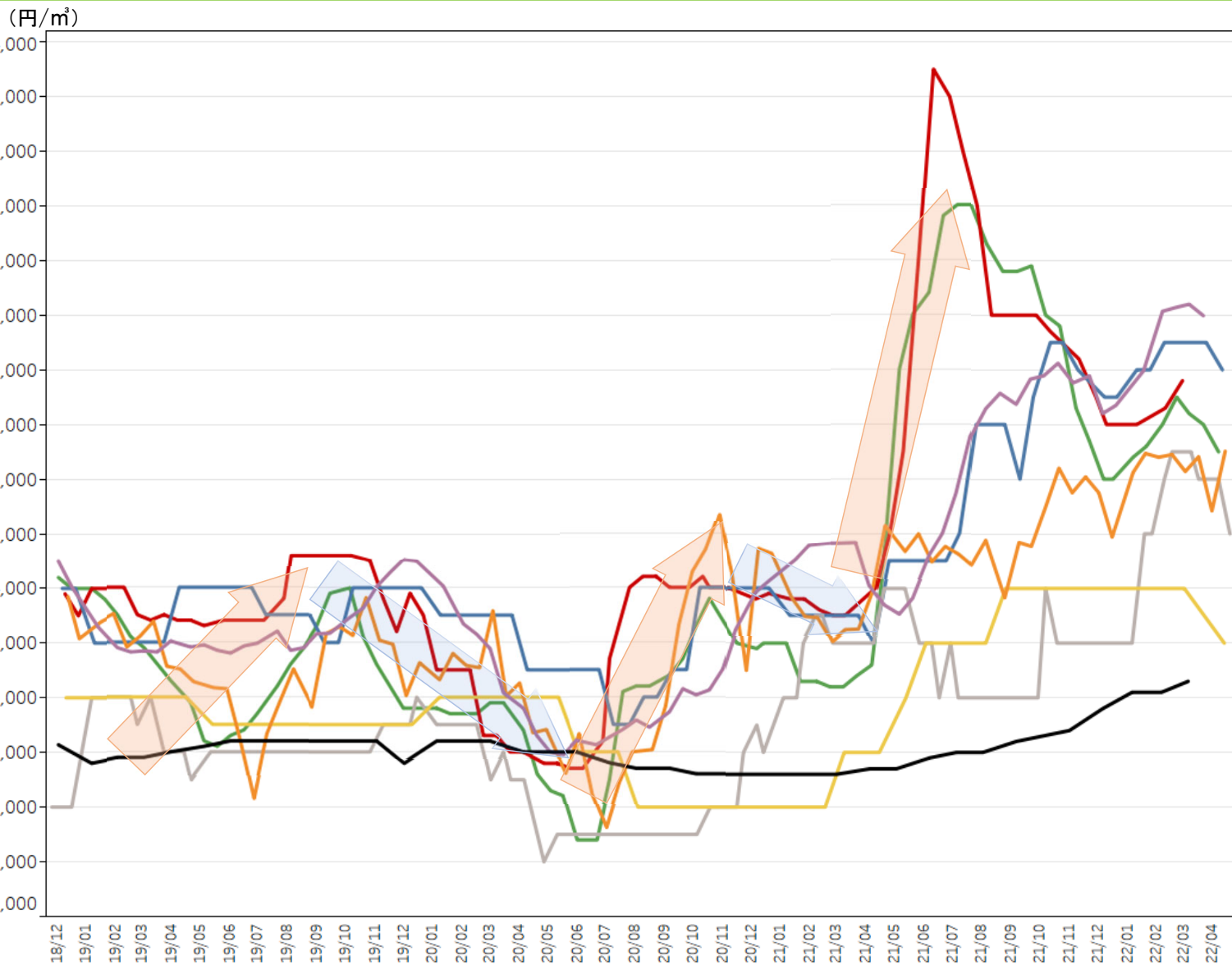
3 住宅着工戸数の動向

4 木材輸出量

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、価格が上昇。その後も高い水準で推移。
- 直近のスギ原木価格は、前年同期比107%から139%となっている。



都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	12,300	10,600	116%
秋田県	18,990	14,830	128%
栃木県	16,510	13,900	119%
長野県	13,000	11,000	118%
岡山県	15,000	14,000	107%
高知県	18,000	13,000	139%
熊本県	17,800	13,500	132%
宮崎県	16,500	12,600	131%

※熊本県については2月、北海道及び秋田県については3月、栃木県、長野県、岡山県、高知県及び宮崎県については4月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

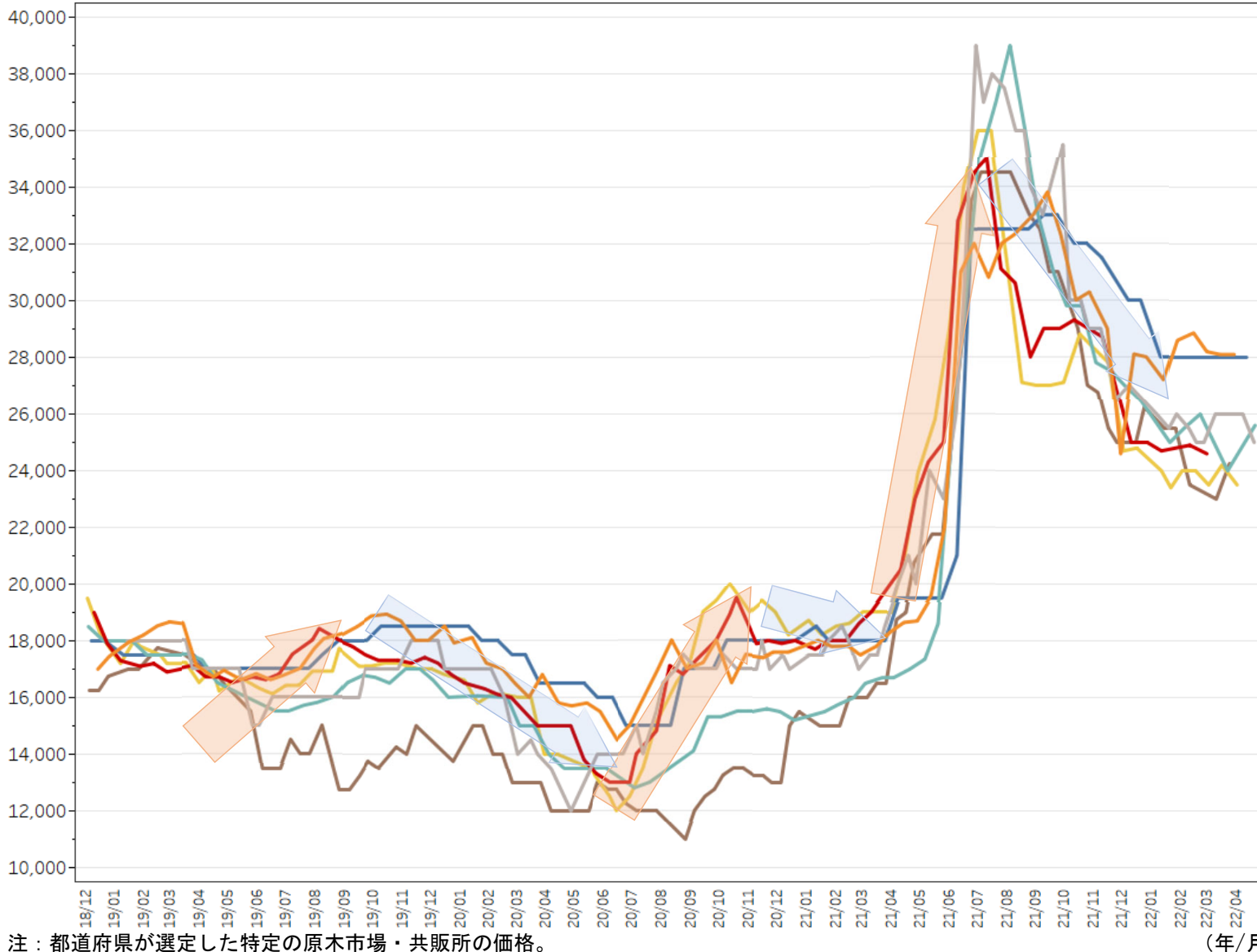
(年/月)

資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、価格が大きく上昇。その後も、高い水準で推移。
- 直近のヒノキ原木価格は、前年同期比119%から161%となっている。

(円/m³)



都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
兵庫県	24,250	16,500	147%
岡山県	25,000	21,000	119%
広島県	25,600	17,000	151%
愛媛県	28,100	17,500	161%
高知県	28,000	19,500	144%
熊本県	24,600	18,600	132%
大分県	23,500	19,000	124%

※熊本県については2月、兵庫県及び愛媛県については3月、岡山県、広島県、高知県及び大分県については4月の値を使用。

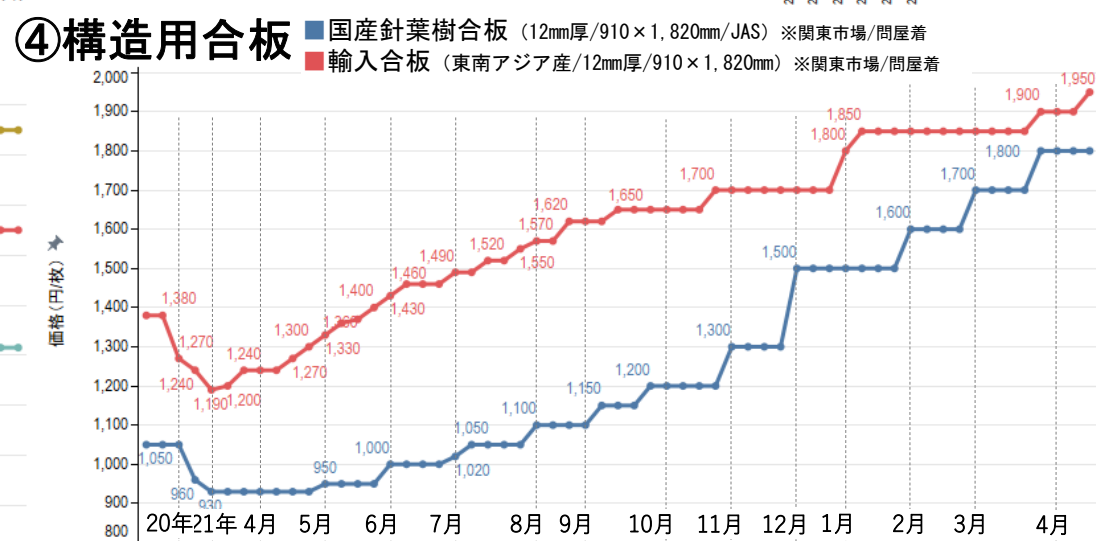
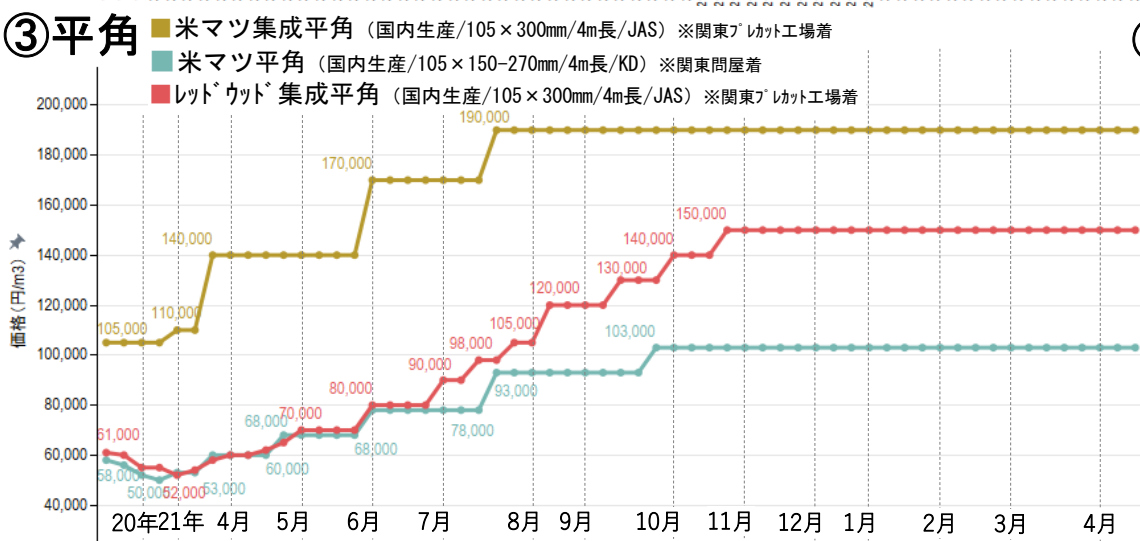
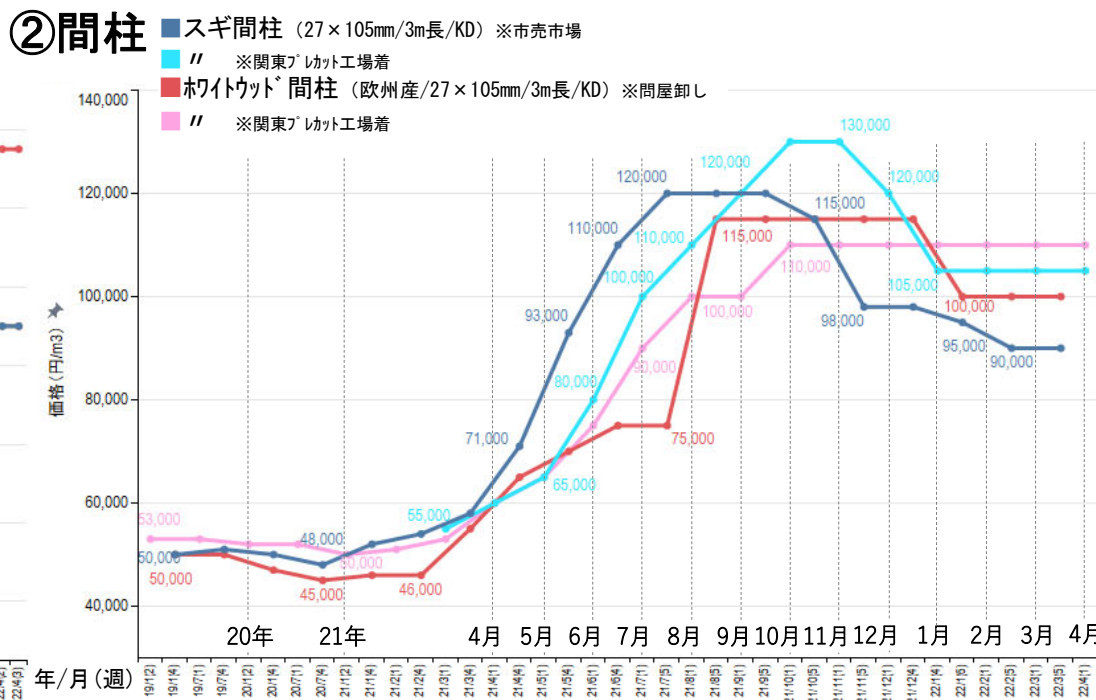
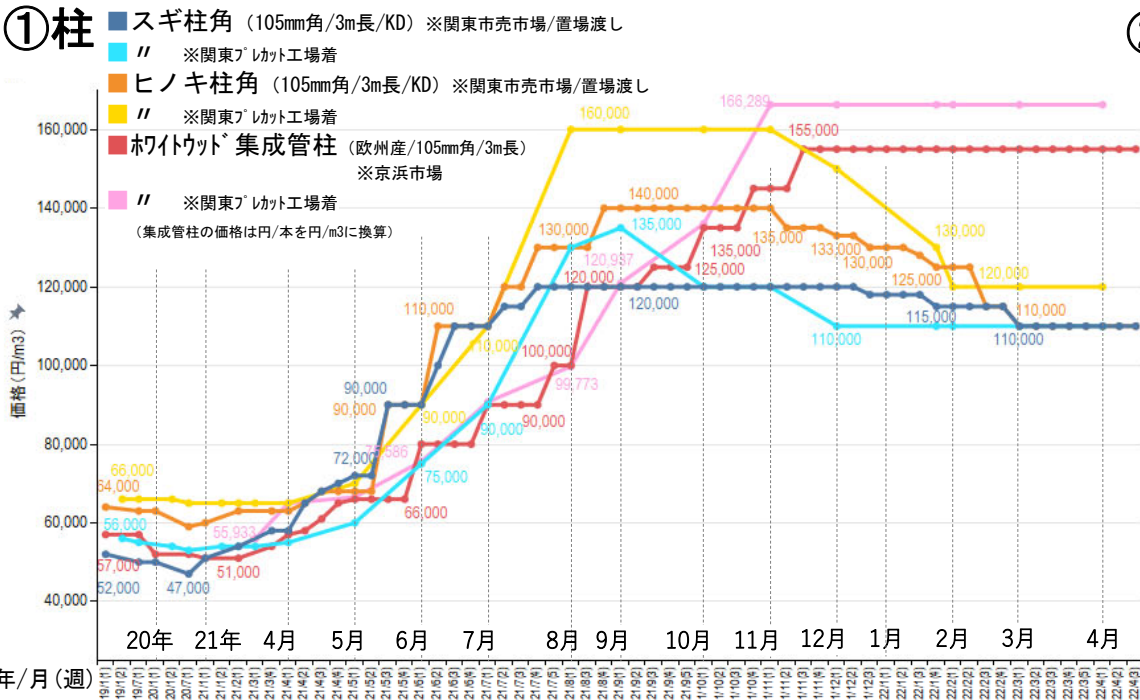
注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(年/月)

(2) 製品価格

- 輸入材製品価格は、北米、中国、欧州など世界的な木材不足に加え、コンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- 国産材の代替需要により国産材製品価格も上昇し、直近では合板は上昇傾向、製材は高止まりとなっている。

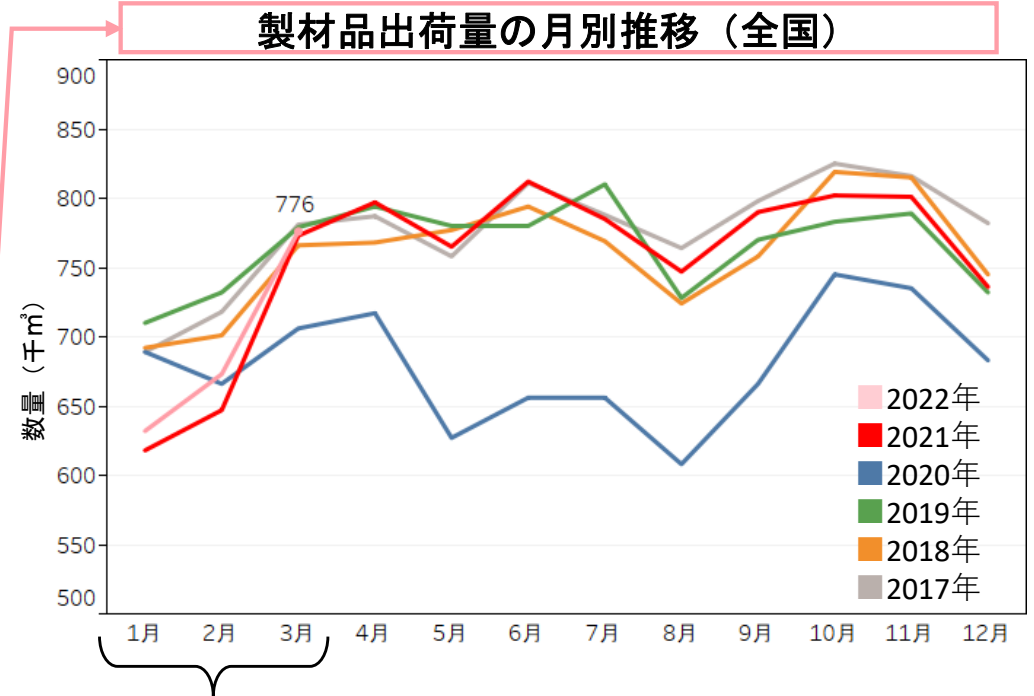
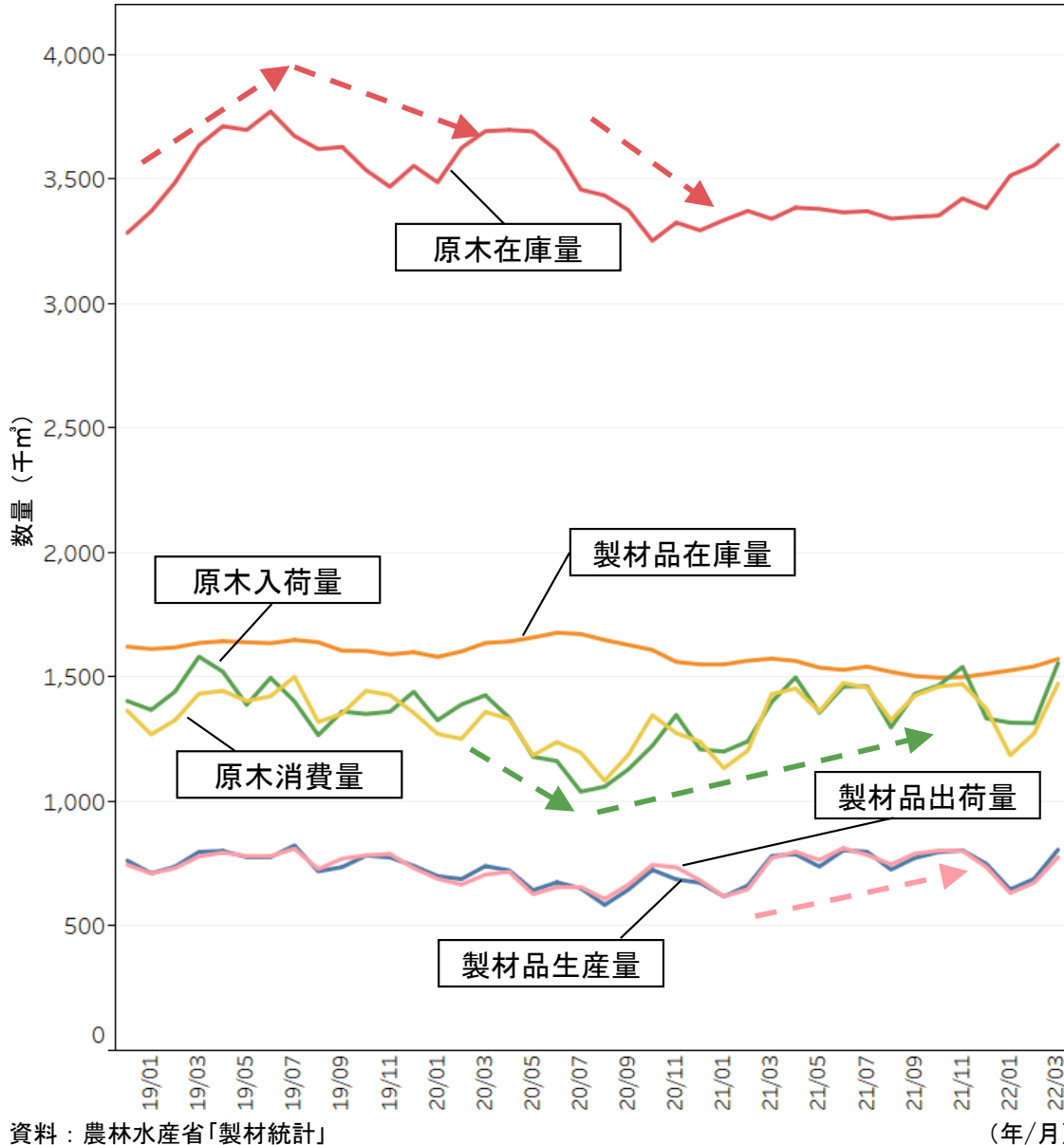


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- 2022年1～3月の原木の入荷量は4,185千m³ (2019年比95%)。
- 同様に製材品の出荷量は2,081千m³ (2019年比94%)、コロナ禍前の水準以下となっている。

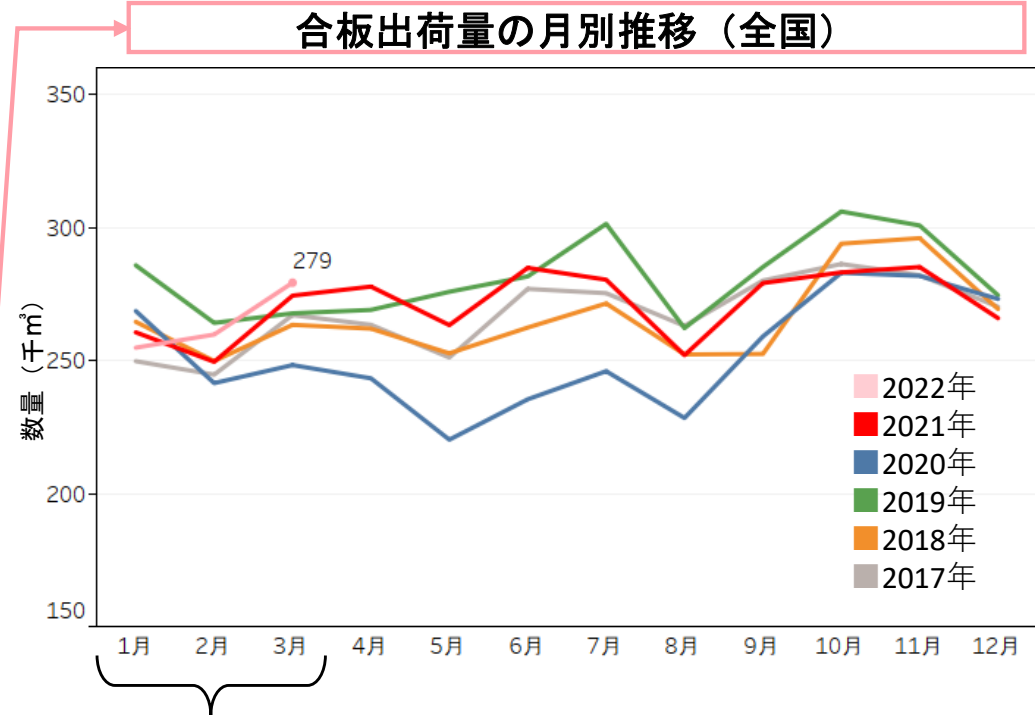
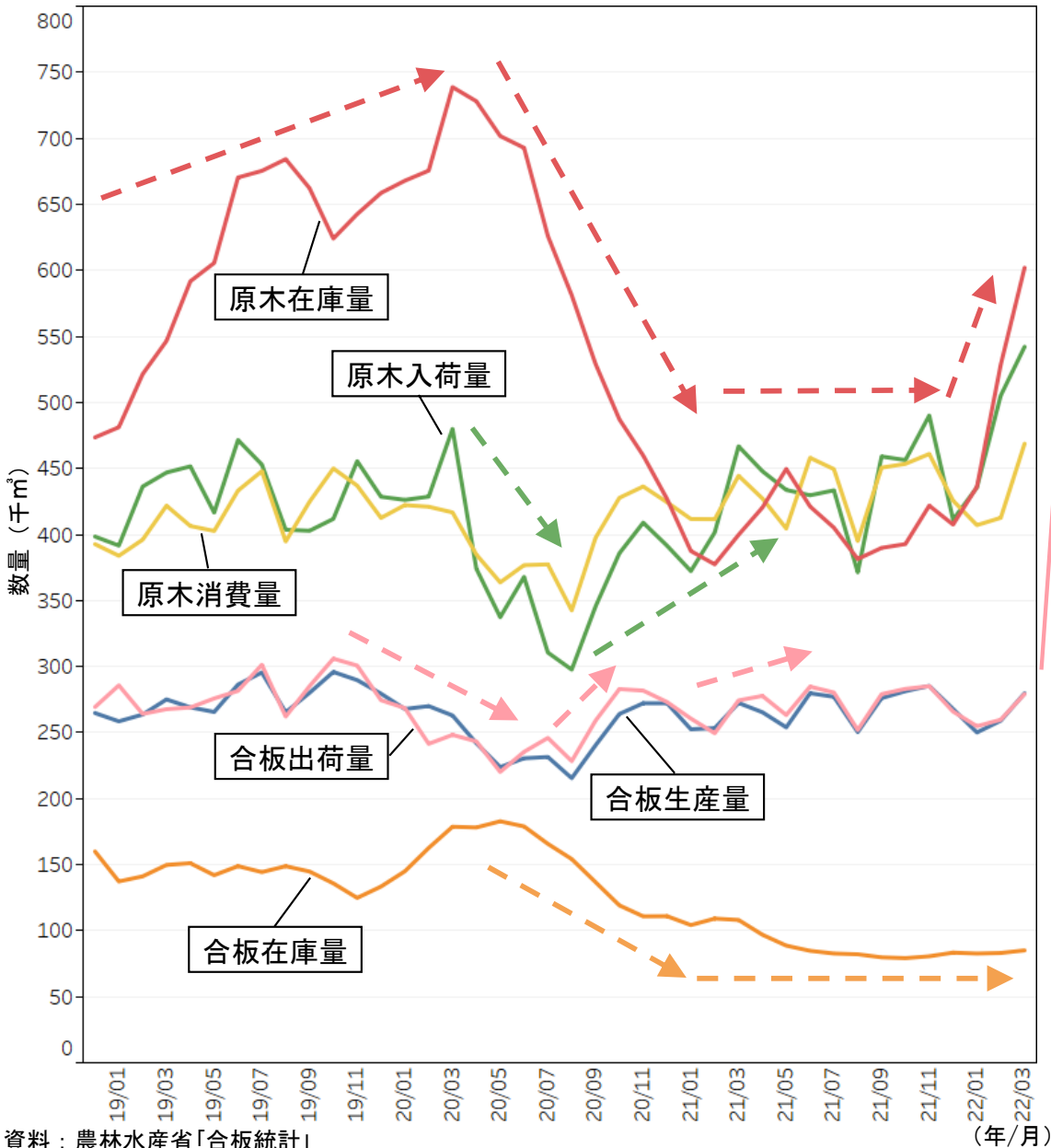


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～3月原木入荷量合計(千m ³)	4,177	4,172	4,389	4,141	3,840	4,185
2019年との比較*	95%	95%	—	94%	88%	95%
1～3月出荷量合計(千m ³)	2,188	2,159	2,221	2,061	2,038	2,081
2019年との比較*	99%	97%	—	93%	92%	94%

*2019年の数値を100%とした比較

(2) 合板 (全国)

- 2022年1～3月の原木の入荷量は1,483千 m^3 (2019年比116%)。原木在庫量は回復してきている。
- 同様に合板の出荷量は794千 m^3 (2019年比97%)、概ねコロナ禍前の水準となっている。合板在庫量は2020年5月から減少傾向であったが、現在は低い水準で推移。

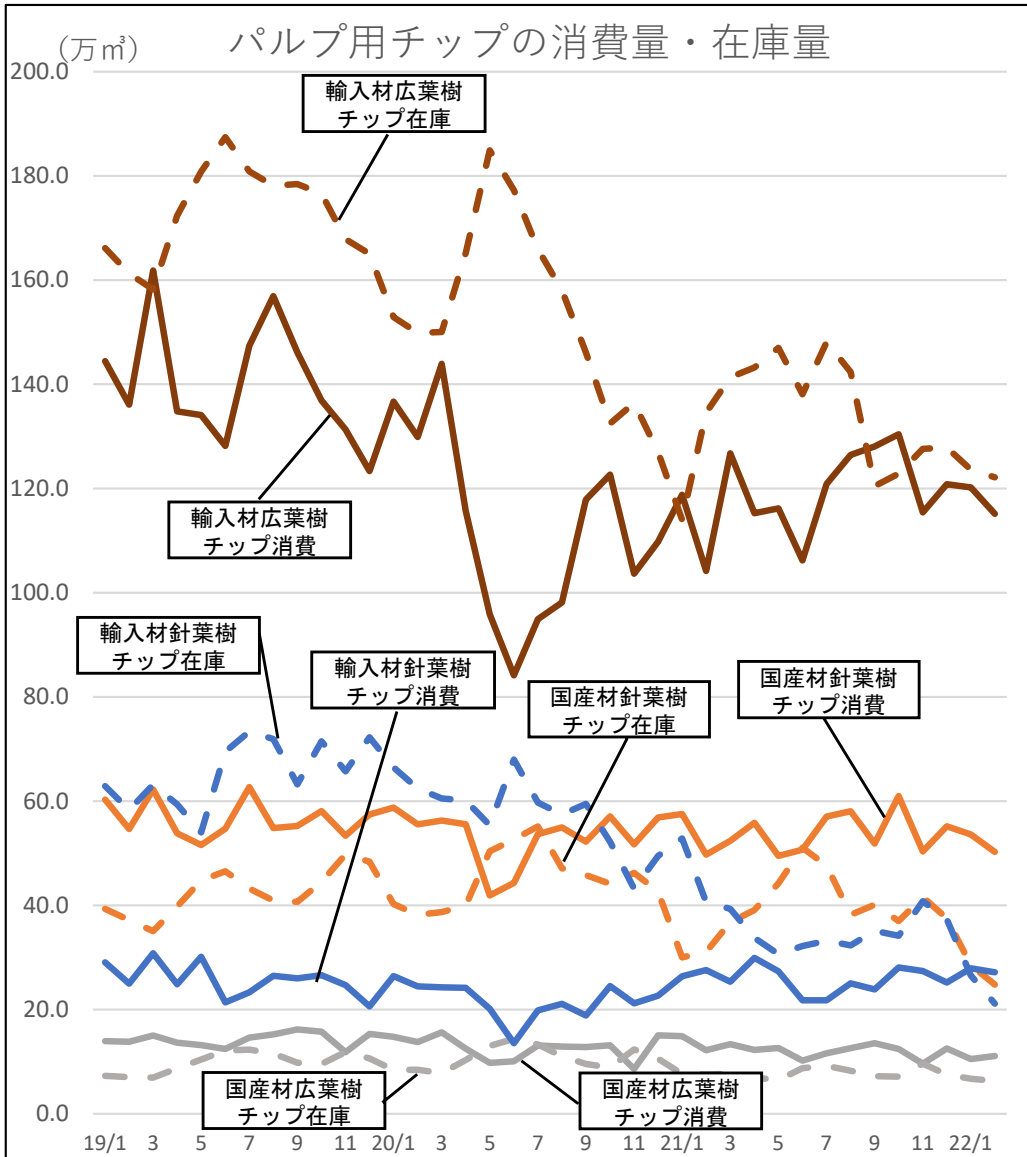


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～3月原木入荷量合計(千 m^3)	1,099	1,223	1,275	1,335	1,241	1,483
2019年との比較*	86%	96%	—	105%	97%	116%
1～3月出荷量合計(千 m^3)	761	778	818	758	784	794
2019年との比較*	93%	95%	—	93%	96%	97%

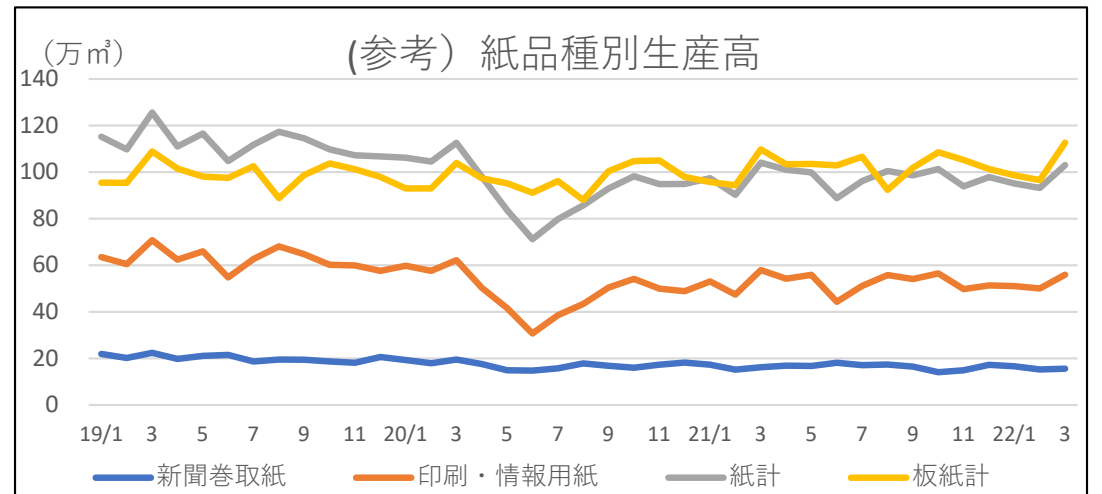
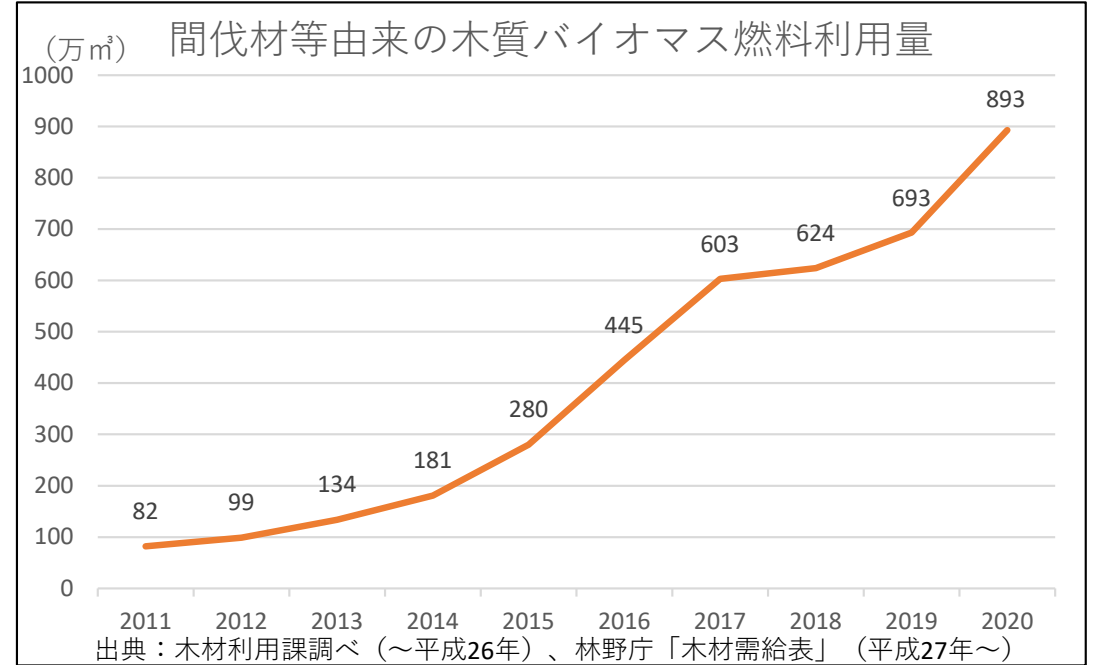
※2019年の数値を100%とした比較

(3) チップ (全国)

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、一貫して増加傾向が続いている。
- 紙の生産高は2020年6月に減少したが、その後一定程度回復している。



資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

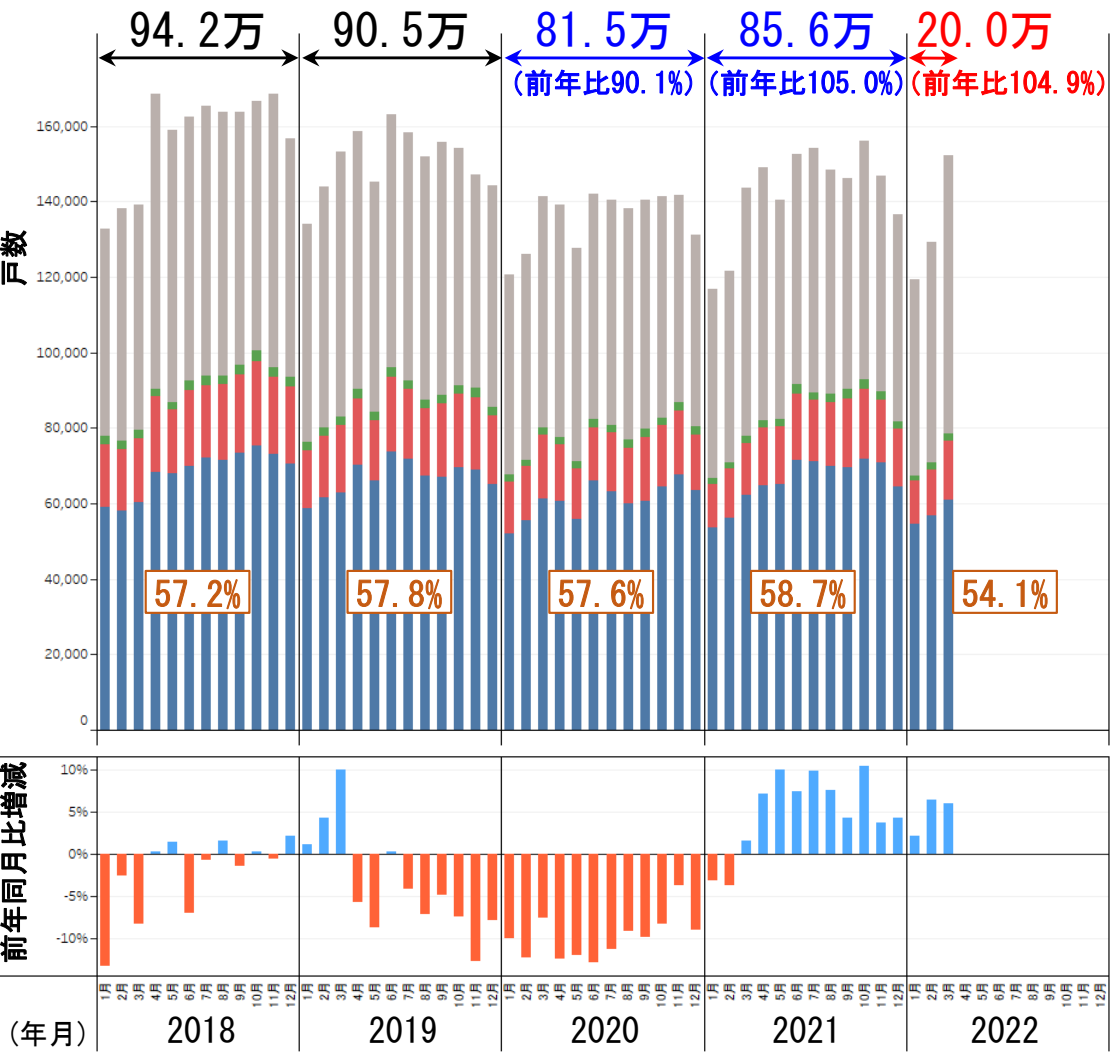


資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

3 住宅着工戸数の動向（2018年1月～2022年3月）

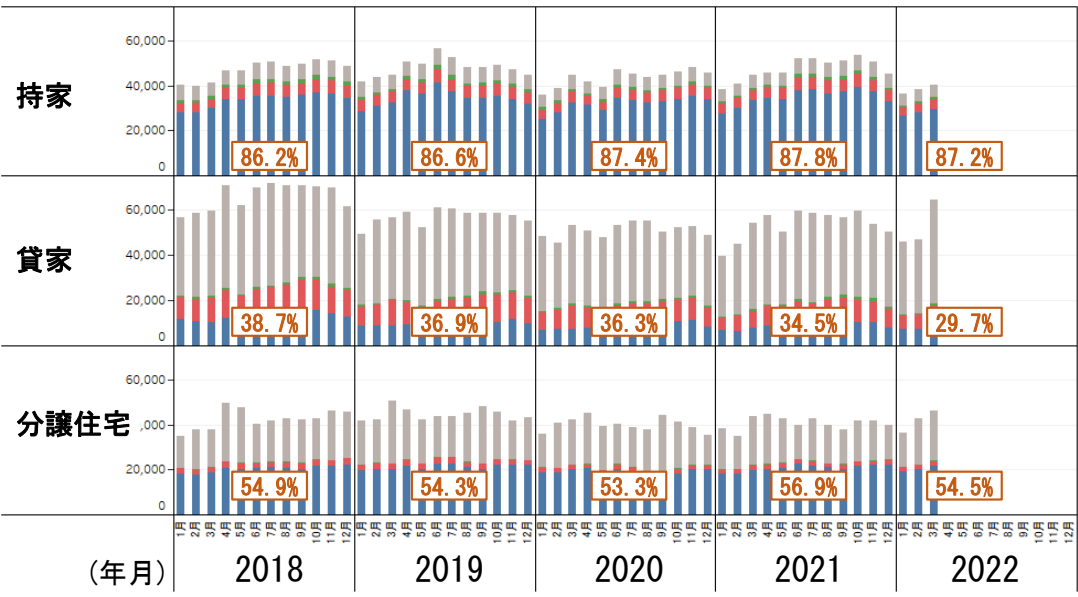
- 2021年の新設住宅着工戸数は、85.6万戸（前年比105.0%）、このうち木造住宅は50.2万戸（同107.0%）となり、2020年からは増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の水準は下回った。
- 2022年1～3月の新設住宅着工戸数は、20.0万戸（前年同期比104.9%）、このうち木造住宅は10.8万戸（同100.5%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2022年 1～3月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	200,424	190,999	104.9%	194,175	103.2%
■非木造	92,078	83,143	110.7%	84,363	109.1%
木造	108,346	107,856	100.5%	109,812	98.7%
■木造プレハブ	2,043	2,169	94.2%	2,425	84.2%
■2×4	19,969	19,537	102.2%	22,966	87.0%
■在来軸組	86,334	86,150	100.2%	84,421	102.3%
□木造率	54.1%	56.5%		56.6%	

(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)

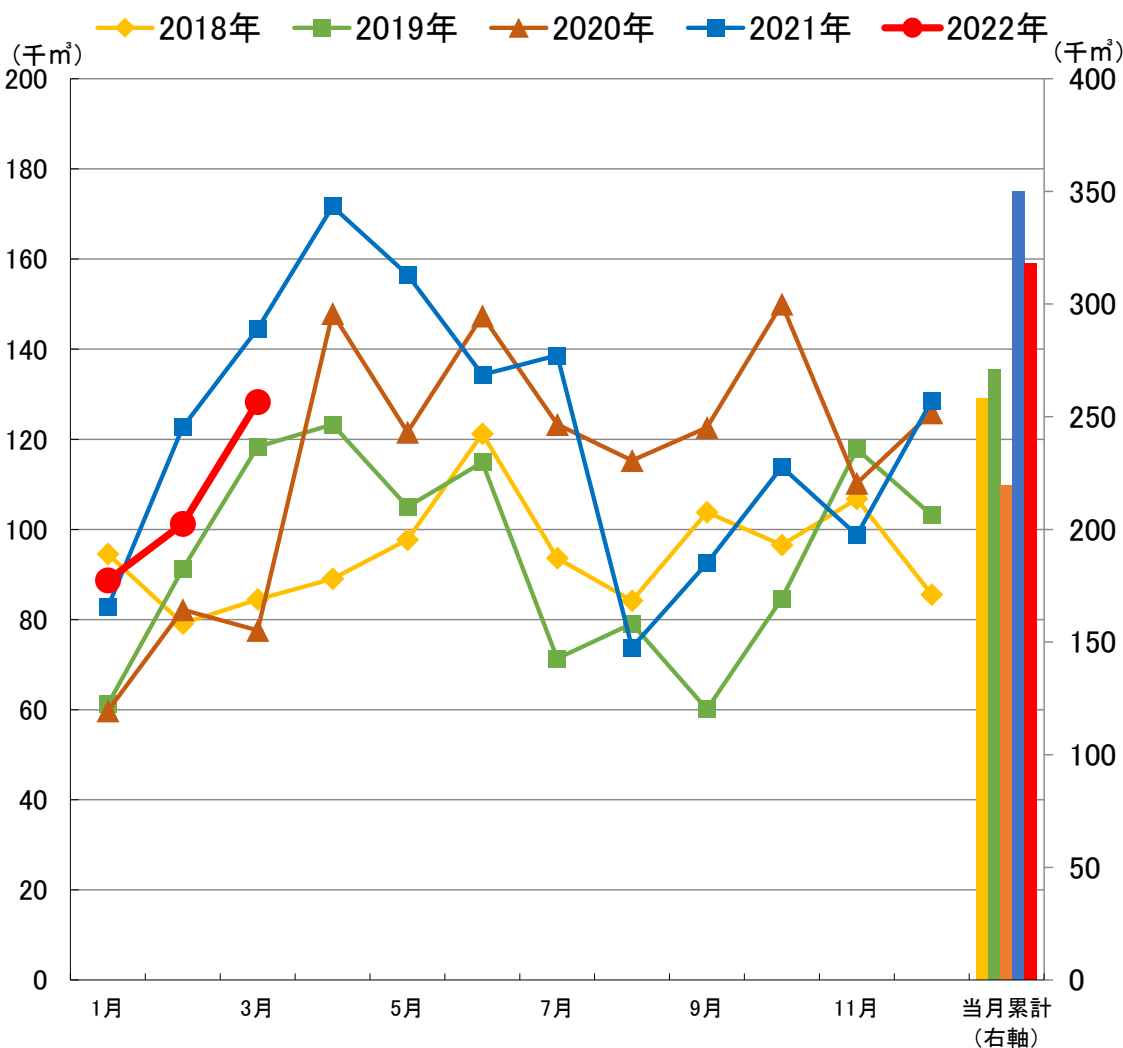


資料：国土交通省「住宅着工統計」

4 木材輸出量

・ 令和4年3月の輸出量は丸太128千 m^3 （前年同月比89%）、製材19千 m^3 （前年同月比90%）、合板13千 m^3 （前年同月比104%）となった。

○丸太輸出量の推移（月別）



資料：財務省易統計
 ※貿易統計の第4403, 4407, 4412の一部類を集計
 ※四捨五入により、数値が合わないことがある

○木材輸出量の状況（累計：主な国別・品目別）

輸出先	単月 3月			累計 1～ 3月		
	主要品目内訳(千 m^3) 前年比(%)			主要品目内訳(千 m^3) 前年比(%)		
	丸太	製材	合板	丸太	製材	合板
中国	106 88%	6 85%	1 76%	262 91%	17 122%	2 97%
韓国	11 86%	1 64%	0 49%	29 88%	2 75%	0 67%
台湾	10 123%	2 78%	0 0%	26 122%	4 101%	0 0%
米国	0 —	4 56%	0 107%	0 —	13 79%	0 107%
フィリピン	0 —	6 187%	12 107%	0 —	17 195%	31 101%
総計	128 89%	19 90%	13 104%	318 91%	55 115%	33 101%

○税関ごとの丸太輸出量

税関名	管轄※	合計(千 m^3) 1～ 3月	比率 1～ 3月
函館税関	北海道,青森,岩手,秋田	28.0	8.8%
東京税関	山形,群馬,埼玉,千葉,東京,新潟,山梨	1.3	0.4%
横浜税関	宮城,福島,茨城,栃木,千葉,神奈川	3.4	1.1%
名古屋税関	長野,岐阜,静岡,愛知,三重	2.5	0.8%
神戸税関	兵庫,鳥取,島根,岡山,広島,徳島,香川,愛媛,高知	3.1	1.0%
大阪税関	大阪,京都,和歌山,奈良,滋賀,福井,石川,富山	5.7	1.8%
門司税関	山口,福岡,佐賀,長崎,大分,宮崎	94.0	29.5%
長崎税関	福岡,佐賀,長崎,熊本,鹿児島	180.1	56.6%
沖縄地区税関	沖縄	0.0	0.0%

※木材の集荷範囲とは対応していない